



学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和5年7月20日

横浜市立三ツ境小学校

# 三ツ境小だより 8・9月号

## 「修学旅行 集団宿泊活動の意義」

校長 飯田 雅人

7月5日・6日の2日間で6年生は日光修学旅行に出かけてきました。ここ3年半のコロナ禍では、修学旅行に行くことができるのが当たり前ではない時期もありました。日本全国の学校で修学旅行をやむなく中止にしたり、延期をしたり、また行き先を変えての日帰り実施に変更したりと苦渋の選択をせざるを得ない学校もありました。子どもたちにとって一生に一度しかない小学校の修学旅行です。昨年度までは、私も前任校で何とか実施してあげたいと、ときには何度も年間行事予定を組み直し、延期を重ねて修学旅行を実施した時もありました。今年度の三ツ境小学校での修学旅行中の子どもたちの笑顔を見ていると、何事にも代えがたい思い出を作ることができ、本当によかったなと思っています。もちろん全く心配がなかったわけではありませんが、保護者の皆様の実施に至るまでのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

そこまでして行っている「集団宿泊活動の意義」とは何でしょうか？  
国立青少年教育振興機構によると、以下のようにまとめられています。

- 1 自然体験や生活体験が「主体的な学び」の基盤となる「自己肯定感」を高める。
- 2 集団宿泊活動が「よりよい人間関係を形成」し「対話的な学び」ができる学級づくりにつながる。
- 3 実感をともなった理解は「深い学び」にもつながる。

また、現行の学習指導要領「特別活動編」の遠足・集団宿泊的行事の目標は、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」とされています。

たった1泊2日ではありますが、日頃の学校生活や家族旅行では決して味わうことのできない貴重な体験ができる大切な行事です。子どもは、行事を通して大きく成長していきます。この宿泊体験が、きっとこれからの子どもたちの日頃の学校生活にも生きていくことでしょう。もちろん10月以降に実施予定の5年生の愛川宿泊体験学習や4年生の上郷宿泊体験学習にも同じことが言えます。

さて、明日から子どもたちは夏休みになります。今度は逆に、子どもたちがそれぞれのご家庭や地域で、学校だけでは体験できない貴重な体験をし、夏休み明けには、また一回り大きく成長して学校に戻ってきてくれることを願っています。